

令和 7 年 5 月 22 日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

産業建設委員会
委員長 川 上 幾 雄

委員派遣報告書

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、視察調査を終了したので報告します。

記

- 1 期間 令和 7 年 4 月 22 日（火）～4 月 24 日（木）
- 2 視察先及び調査項目
 - (1) 東京都千代田区（高見・舞立・青木・三浦事務所）
 - ・農業、水産、港湾の課題等について地元選出国會議員との意見交換
 - (2) 山梨県甲府市
 - ・甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座（現地視察）
 - (3) 栃木県宇都宮市
 - ・水道局直営のヤシオマス「ストロベリーサーモン」の養殖
- 3 経費
 - ・旅費 592,923 円（7 人分、1 人分キャンセル料含む）
 - ・土産 6,264 円
- 4 派遣委員、事務局
川上幾雄、村木勝也、大谷学、小川稔宏、佐々木豊治、牛尾昭、小寺一平（随 行）
- 5 調査の概要（視察の報告書）
別紙のとおり

産業建設委員会 行政視察報告書

1 地元選出国會議員との意見交換

(担当者 川上 幾雄)

- (1) 日時 令和7年4月22日(火) 13:00 ~ 15:00
- (2) 場所 衆議院議員会館及び参議院議員会館
(高見事務所、青木事務所、三浦事務所、舞立事務所)

(3) 目的(選定理由)

- ・浜田市における産業建設委員会所管課題について意見交換と要望を行う

(4) 意見交換相手

- ・高見康裕衆議院議員
- ・青木一彦事務所秘書
- ・三浦靖事務所秘書
- ・舞立昇治事務所秘書

(5) 意見交換の内容

ア 水産振興について

- ・交付金等様々な支援制度がなされているが民間事業者は対象となっていない。
- ・施設の老朽化が進み陸上機能の低下が課題となっている。
- ・人口減少や水揚量の減少などにより財政状況は厳しい。
- ・問題解決には民間活力を生かした取組が必要。
- ・民間企業が活用可能な事業の拡充が必要。

【回答】

- ・魚種の変化については理解しており、現在ある資源をどのように活用するか、水産庁とも検討している。

イ 重要港湾浜田港について

- ・コンテナ取扱岸壁の水深が8.5mと浅く、近年の大型船化に対応できていない。
- ・現状岸壁延長では同時接岸は難しく、船舶の寄航が減少することを危惧している。
- ・ふ頭用地も狭く増加する取扱貨物の置き場に困窮している。
- ・船舶大型化に対応する岸壁等港湾機能の強化に向けた早期の整備が必要。
- ・現在進めておられる新北防波堤の引き続いての事業推進が望まれる。

【回答】

- ・ 浜田港は国・県において工法を検討し詰め段階になっている。最新情報を調査して報告する。
- ・ インフラ整備で港湾として土俵に立てるようにしたい。
- ・ 浜田港は、防災・国防の観点から考えており、東日本大震災時のくしの歯作戦で活用したことは例として挙げられる。
- ・ 防波堤を延伸する予算は進捗を含めて確認しており、他議員とともに進めていく。

ウ 中山間地域の農業振興について

- ・ これまでの加算措置である集落機能強化加算が廃止された。
- ・ 新たに農村 RM0 事業の活用を勧められているが、1 自治体 1 地区の採択などの理由から要望した集落が不採択となり、継続集落も要望額が大幅減額された。
- ・ 条件不利である農地維持には、そこに住み続けることが必要であり支援は重要。
- ・ 集落機能強化につながる支援策や予算の充実が必要。

【回答】

- ・ 農業と土地改良については多様な方より依頼があり理解している。

エ その他意見交換内容

- ・ 今後 5 年間の国土強靱化事業予算について
- ・ 大学周辺の整備について
- ・ 矢原川ダム本体工事の着工時期について
- ・ 下水管老朽化への対応について
- ・ 中山間地域等直接支払制度について
- ・ 小規模農家、兼業農家について

(6) 各委員の所感

【川上委員長】

- ・ 事前に浜田市の現状を十分調査されているように感じた。
- ・ 国土強靱化予算の増を基に建設関係事業推進は力強く受け止めた。
- ・ 今後の物価高傾向を約 20%と見込み予算化を検討されている。
- ・ 浜田港改修の必要性を理解の上現在進行されている。
- ・ 下水管の点検について新技術で補助事業として予算化。

- ・ いずれにしても、市議会（委員会）として要望・意見交換を行ったことは、浜田市の現状を目の当たりにしている者として大変有効であったと感じる。

【村木委員】

- ・ 矢原川ダムの早期実現について、元々項目になかったが、地元の方と国会議員と話す機会があると話をしたところ、話をしてほしいと言われ、当委員会の所管でもあり、委員長の許可を得て伝えた。現時点において、道路等の関連予算は付けていただいているが、市民は「いつ完成するのか」が知りたい。既に調査からは30年経っており、計画の見通しを早く聞けるよう意見を交わした。
- ・ 要港湾浜田港の整備について、防災の輸送においても大切な港であることを伝えた。特に東日本大震災において、太平洋側の港が被災したため、ロシアからの水を浜田港で揚げて陸路で気仙沼に運送した事例を話した。
- ・ 中山間地域の農業振興について、項目にはなかったが、この課題解決の一つに兼業農家の支援もあるのではないかと伝えた。認定農業者の支援・育成、有機野菜の振興も大切だが、全国の半数以上の兼業農家を支援し、耕作放棄地を少しでも減らす政策の必要性を伝えた。具体的には、機械購入の助成ではないかとも申し添えた。

【大谷委員】

- ・ 地元からの陳情を直接伝え、意見交換ができたことは大変有意義であったと感じる。特に舞立事務所では、浜田港港湾整備について詰めの段階であるとの認識を示していただいた。明らかにできるところについては後日連絡をしたいとのことであったので期待をしたい。
- ・ 議員公務で不在のところについては、秘書の方との意見交換をさせていただいたが、国が取り組もうとしている政策について、文字だけでは分からないニュアンスも感じ取ることができたので、今後の政策の方向性を感じ取ることができたので有効な時間であったと感じた。

【小川委員】

- ・ 水産振興について、魚種も変わり厳しさは認識しており水産庁とも話をしている。小規模養殖事業に参入できる制度については、陸上養殖は一つのキーになるとの認識。水産庁は海業を進めており、浜活で交流人口含め水揚げしたものを皆で楽しめる仕組みを陸上養殖含め柔軟に検討をお願いしたい。道の駅も少しさみしくなっているとの声も聞いている。

- ・浜田港について、コンテナ船の2便化や国際的な大型化に対応するためのインフラ整備の必要性をご理解、ご協力いただき、水深10mの確保と埠頭の延伸については詰めの段階にあるとのことで心強く思った。

国土強靱化予算も15兆円から20兆円強へ25%増となり、向こう5年間の物価高騰への対応も考慮されたものになっているとの説明もあった。背景には能登地震や埼玉での下水管事故があり、緊急点検の必要性から効率化、最新技術のカタログも用意するとのことであった。

その他で、港湾整備に関連して県立大学から西に回るゲートウェイロード線について、市単独では困難なため検討をお願いした。

浜田港の位置付けについては防災が大きな柱で国防・安保にも関わるとのことであった。東日本大震災時にくしの歯作戦として行ったが、山陰道を開通させることで安保・防災の意味が果たせる。また、下関・北九州の話もあり山陰まで通すことが大事とのことであった。

- ・農業振興について、農業の風向きが変わった。高度成長以降初めてのことでないかとの話もあった。米不足はないと言われていた。新米が出れば米不足は解消すると言われていた時期に備蓄米を放出していれば良かった。減反政策で染み付いた恐怖感に対する見方が変わってくれば良い。おにぎり専門店が高価だがもうかっているとのことである。

【佐々木委員】

- ・国土交通政務官でもある高見議員からは、今年度で終わる5年の国土強靱化計画について来年度からも物価高騰などによる予算も積み増しして継続するとのこと。さらに水道管の緊急点検も新たな技術を入れて効率的に行うよう各自治体にも通知し、国が新技術のカタログも作っているとのことだった。短時間ではあったが国土交通省所管の事業予定が理解できた。
- ・青木事務所では浜田国際貿易港の港湾整備について、三浦事務所では米の高騰対策などについて、要望や意見交換ができ、直接声を届けることができた。

【牛尾委員】

- ・合併以降、委員会やそれぞれの議員が国会に出向いて要望や意見交換会を実施したことはなかったが、大いに手ごたえを感じた。年に一度くらいの訪問は必要と感じた。

2 山梨県甲府市

甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座(現地視察)

(担当者 村木 勝也)

(1) 日時 令和 7 年 4 月 23 日 (水) 9 : 30 ~ 11 : 40

(2) 場所 甲府市役所、甲府市歴史文化交流施設「こうふ亀屋座」

(3) 視察の目的 (選定理由)

- ・文化や歴史を生かしたまちづくりの先進地として、浜田駅周辺エリアにおけるにぎわい創出に係る考え方や実現の方策、郷土資料館や文化小ホールに関して現地を調査する。

(4) 視察先の概要

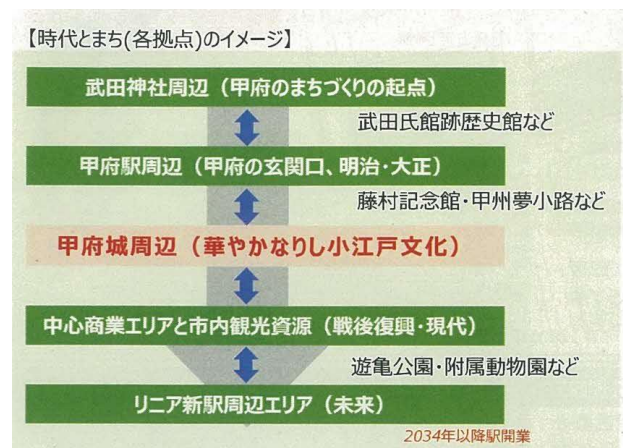
- ・人口は 185,088 人 (令和 7 年 4 月 1 日時点)、面積は 212.47 km²。
- ・山梨県のほぼ中央に位置し、市域は南北に細長く北端は長野県に接地。
- ・甲府市は山梨県の県庁所在地であり県内で人口最多の中核市である。
- ・平成 31 年には戦国武将武田信玄公の父・信虎公が躰躰ヶ崎に館を構え、甲斐の府中「甲府」が誕生してから 500 年を迎えた。
- ・直近の合併は平成 18 年 3 月 1 日 (旧中道町・旧上九一色村北部地域)

(5) 視察の内容 (視察先の取組、事業内容等)

○小江戸甲府 城下町整備プラン (令和 4 年 6 月)

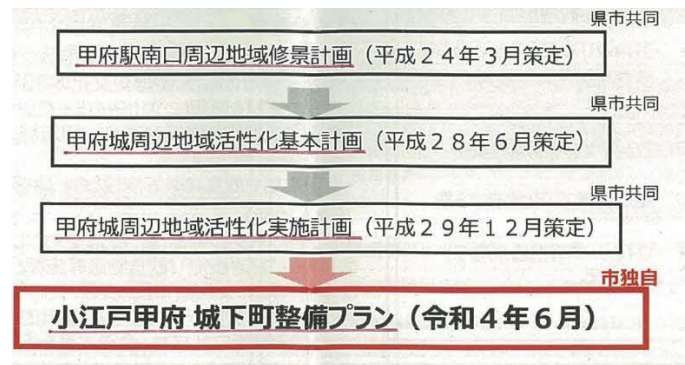
ア プランの策定背景

- ・1519 年の武田信玄公の父・信虎公が武田神社に館を構えたことから 2019 年で開府 500 年の長い歴史がある。
- ・7 キロ先には、リニア新駅の設置が予定されている。
- ・甲府開府 500 年を契機とした「未来につなぐまちづくり」として、甲府が紡いできた重層的な歴史・文化を感じながら周遊・交流できるまちを次世代に継承していく。
- ・百貨店跡地再開発や動物園のリニューアル整備など中心市街地の活性化を重点的に行っている。
- ・市長の思いである「歴史とみらいにつなぐまち」を具現化するもの。



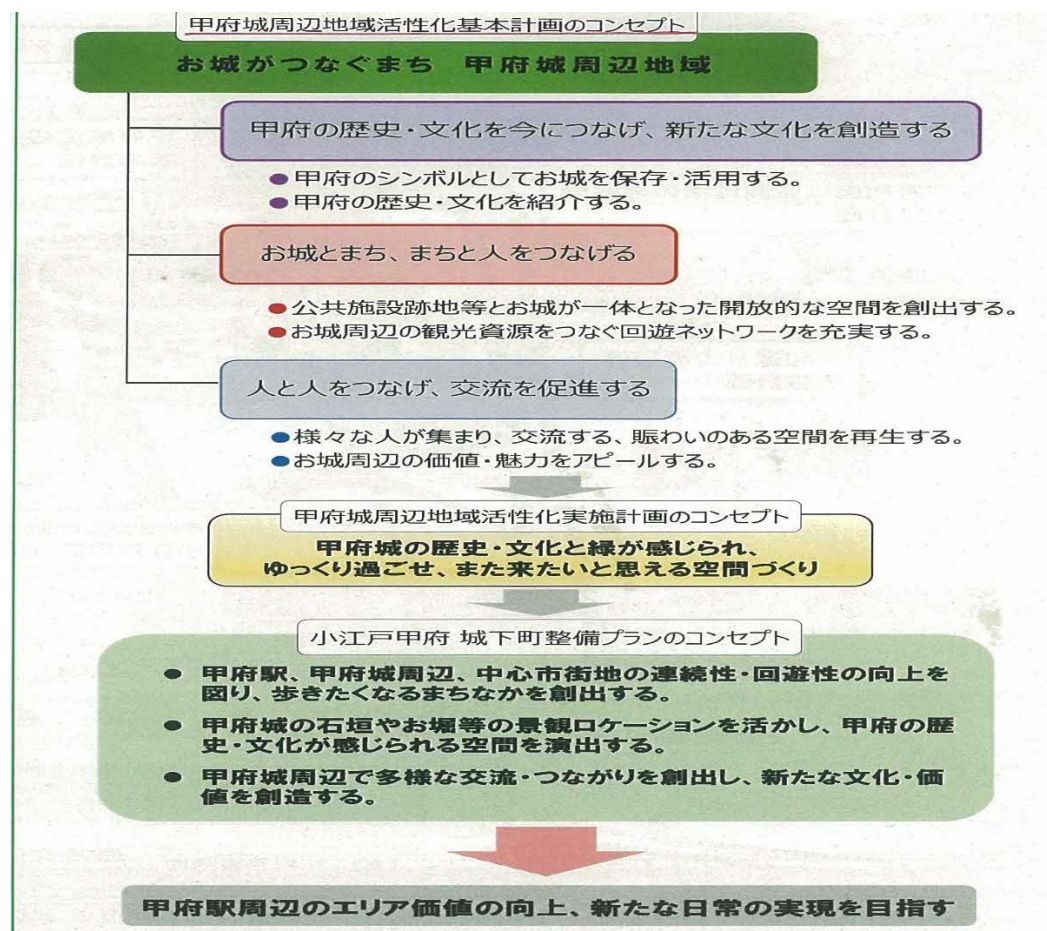
イ プランの位置付け

- ・「城下町整備プラン」は「甲府城周辺地域活性化実施計画」のアクションプランである。
- ・県の副知事と市の副市長がトップとなり、関係各課、商工関係者、有識者（都市計画、歴史、観光、地元自治会、商店会など）のほか、アンケート、ワークショップ、整備のアイデア募集などで市民・県民の意見を取り入れて計画を策定。
- ・平成24年から計画をじっくり練り、計画実現に向けて進んできた。



ウ プランのコンセプト

- ・「つなぐ」「つながる」が重要なキーワードとなっている。
- ・このコンセプトをベースとして、甲府駅周辺のエリア価値の向上、新たな日常の実現を目指す。



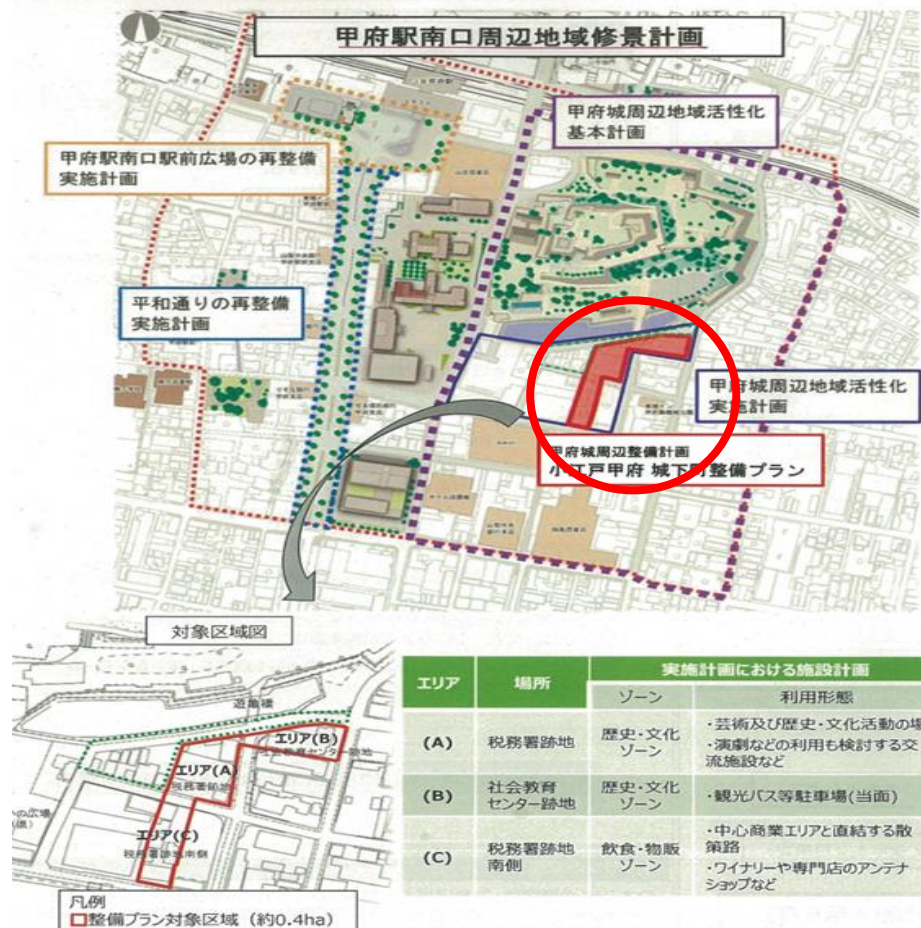
エ プランの期間

- ・令和6年度までで、令和7年度に「交流施設」「交流広場」「散策路」等の各施設の供用開始を目指す。令和7年4月19日オープン。

オ プランの対象区域

- ・対象区域を広く策定し、徐々に絞り内容を具現化していく。
- ・今回の視察対象は下の図の赤丸部分。

実施計画区域のうち、本市が優先的に整備を進めている旧甲府税務署跡地（以下、「税務署跡地」という。）、税務署跡地南側及び社会教育センター跡地を対象区域とします。



カ 全体整備イメージ

- ・国（税務署）や県、市の土地を活用した。
- ・なぜ建設部ではなくまちづくり部なのかは、これからの時代において、インフラが老朽化するなかで、造ったものを使うのではなく、「使う視点を持って造る」ところが重要ではないか。ハードとソフトにおいて、使う側の視点を持つことから「まちづくり部」とした。



- ・企業へのサウンディング調査を地道に行い、計画を策定した。
 - ・「こうふ亀屋座」は甲府市で初めて「DBO方式(設計・施工・運営)」を取り入れた(行政が造って指定管理や委託ではなく、運営者が使いやすい施設を設計・施工する)。
 - ・また、花小路のお店は民間資金で建てられ運営されている。市は、土地を貸している。土地のオーナーは市であるが、建物は民間活力を最大限に生かす方針。
 - ・用地買収、更地整備、亀屋座整備に係った費用は、13.2億円
内訳は国庫補助金 5.8 億円、起債 2.3 億円、一般財源 0.9 億円、クラウドファンディング(6 億円超)4.2 億円
- キ 各整備方針(交流施設、交流広場、散策路、飲食物販等施設)

【交流施設】

施設テーマ・・・甲府城と市内の各拠点をつなぐ施設

施設コンセプト・・・華やかなりし小江戸文化を中心に甲府の歴史・文化を感じ、交流し、つないでいく「歴史文化交流施設」

～甲府の豊かな歴史・文化が感じられる場、「観光客」や「市民・県民」が集い、多彩な交流が創出される場～

- ① 甲府城を中心として城下に栄えた小江戸甲府の歴史・文化の発信をはじめ、まちなみや演芸等の交流により、当時の雰囲気や賑わいを今に伝える施設整備を行い、来訪者が江戸時代を基調とした空間に触れながらくつろぎ、ゆったり過ごせる場を提供します。
- ② 本市の観光資源や地場産業等の情報を発信することで、関連エリアやスポットをつなぎ回遊を促進します。

【交流広場】

施設コンセプト・・・多様な交流を生み出す「オープンスペース」

- ① 甲府城及びエリア(C)の散策路とつながる園路を整備するとともに、園路東側の交流施設として活用する部分を除くエリアを、観光客及び市民・県民が集い、憩い、賑わいのあふれる空間として整備します。
- ② 中心市街地への回遊を促進させる機能とともに、多様な交流を創出するためのイベント等も開催できる多目的スペースとして活用します。
- ③ 各種イベント及び市民の活動や発表等、多目的な用途に対応できるスペースとしての設備を設置します。

【散策路】

施設コンセプト・・・小江戸甲府の趣が感じられる、「城下町散策路」

- ① 甲府城、エリア(C)、「オリオンイースト」及び中心市街地をつなぐ歩道を整備します。
- ② まちの回遊性向上及び賑わいの創出を目的として、道路空間のオープン化などの活用を検討します。

【飲食物販等施設】

- ① 散策路部分以外の公有地は、民間事業者への貸付用地として、民間の資金やノウハウ、技術等を活用することにより飲食物販等施設の整備・運営を行い、新たな交流や賑わいの創出を目指します。
- ② 貸付については、「甲府城公有地利活用事業」として、**プロポーザルにより事業者を公募**するものとし、最も優れた提案のあった事業者と基本契約及び**賃貸借契約を締結**します。
- ③ 飲食物販等施設は、江戸風の建築意匠として、甲府城の城下町が栄えていた頃の情緒あふれるまちなみの形成※を目指します。

○甲府城南側エリアの整備（こうふ亀屋座他施設整備）

甲府城南側エリアの整備について

こうふ亀屋座（甲府市歴史文化交流施設）

◆概要
「華やかなりし小江戸文化を中心に甲府の歴史・文化を感じ、交流し、つないでいく歴史文化交流施設」をコンセプトとし、資材の一部に県産木材を利用するとともに、随所に梁や柱を見せることで、木の雰囲気を感じられる空間としています。かつて甲府が賑わっていたころにあった亀屋座という芝居小屋をイメージ。



・構造
木造2階、延床面積：499.35㎡

◆演芸場（多目的ホール）



1階観覧席から見た舞台



2階観覧席（さじきせき）

➢1階・2階合わせて120人程度が観覧でき、寄席や音楽などの演芸の観覧のほか、歌や踊りの発表など、多様な文化芸術の発信の場として活用できます。
➢芝居小屋の雰囲気を出すため、1階は升席とすることも可能。

◆多目的室（全5室）

➢物販や展示、モノづくり体験のワークショップのほか、若手起業家のチャレンジショップなど、様々な用途に使用ができます。
➢演芸場と一体的に利用することで大規模な展示等にも対応可能。



多目的室外側

◆レンタサイクル
➢水素自転車3台、電動アシスト付き自転車12台を設置。

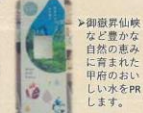


水素燃料電池電動アシスト付き自転車
（カー・モノ・デジタル・エコ）



多目的室内側

◆給水スポット
➢御殿界仙峯など豊かな自然の恵みに育まれた甲府の美味しい水をPRします。





外側看板

◆ワインサーバー
➢地元のワインを中心に、グラス1杯から楽しめます。





オリオンイーストへ

甲府城へ

小江戸甲府花小路（飲食物販等施設）

◆概要
江戸時代に栄えた甲府城の城下町をイメージ。季節感を感じながらゆったりとお店をめぐり歩くことができます。

構造・様式
木造2階 9棟

運営会社
株式会社タンザワHD






交流広場

◆概要
➢円形ステージと階段状のベンチがあり、様々なパフォーマンスを披露する場として利用できるほか、マルシェなどのイベントが開催できます。
➢四季の移ろいが感じられる樹木を植え、椅子やテーブルを設置し、ゆったりと過ごせる憩いの場を提供します。



円形ステージとベンチ



遊亀橋から見た交流広場



交流広場（南）

(6) 質疑の内容

Q. 計画の開始は平成 24 年度だが、具体的な整備はいつからか。

A. 本格的なハード整備は令和 2 年度からである。

Q. DBO（デザイン・ビルド・オペレーション）方式が民間参入しやすいのか。

A. 亀屋座について DBO 方式を採用した。お見込みのとおり。公の施設ではあるが使う側の意見を採用して民間参入がしやすいと理解している。問題は設計・施工・運営が一体となってチームが組めるかどうかである。

Q. DBO 方式の業者選定はどのようにしたか。

A. プロポーザルで決定した。資金面や運営体制なども審査した。

Q. DBO 方式の導入はかなりの政策的診断だがどのように至ったのか。

A. 事前にサウンディングをしっかりと行い、地道にやって事業に踏み切った。DBO 方式の導入に当たり、事業途中から方式を変更したためコンサル等に委託できず、市の直営で事業構築をした。正直かなり苦労したので、コンサルに委託することもありと思っている。ただ、公がハコを造ってここに入って運営をしてくれではうまくいかないと多くの企業から伺った。しっかりと民間企業と意見交換をすることが大切であると思っている。

Q. 行政と商工会議所とのウェイトはどのようなものか。

A. 半々でのバランスであった。市民・県民アンケートや意見も取り入れた。

Q. 商工会関係団体との会議はどのような頻度であったか。

A. 会議がスムーズに運ぶように事前に関係者、関係機関との打合せを頻繁に行った。

Q. クラウドファンディングはどのような出資元なのか。

A. ふるさと納税の活用である。返礼品も発生している。全国各地の方からの寄付である。目的は「このエリアの整備」、総額は 6 億円。

Q. レンタサイクル等周遊における店舗の紹介は。

A. 既存のパンフレットや小さい親子連れに優しいお店の紹介パンフレットをエリア内に置いている。

Q. 庁内の連携はどのようにされているか。

A. 庁内において、各部署としっかりと打合せしている。特に今後は、歴史文化の体験型観光について進めていくよう考えている。

Q. 事業費 13.2 億円は、花小路以外か。

A. その通り。亀屋座や既存施設の解体費等も入っている。

Q. 市民・観光客の誘客の計画は。

A. 市民・県民・観光客の割合はないが、この駅南の甲府城エリアに年間 60 万人の方にお越しいただく計画である。大きな目的は、市民・県民の方に来ていただき、その方々が発信することで観光客が来ていただくこと。東京から電車で 1 時間 30 分、アクセスは良いが日帰りが多い。消費単価を増や

すため、宿泊、滞在者を伸ばすよう考えている。

Q. 亀屋座設置のコンセプトは。

A. 甲府市の歴史の中で小江戸における芝居小屋をイメージしたものである。

多目的ホールではあるが、当時の芝居小屋におけるストーリーも考え名前を付けた。

Q. 亀屋座が今後 8 年後には自走する計画であるが、どこが担当か。

A. 指定管理者が企画する。収入は貸館使用料、駐車場使用料、提灯やのぼり等の広告料である。

(7) 各委員の所感

【川上委員長】

- ・ 事前準備（計画策定まで）に十分な時間をかけている。
- ・ 計画策定・実施について県・市・民間の協働が生かされている。
- ・ 事業の中心となっているのが中堅職員であり柔軟性が見受けられた。
- ・ 縦断的、横断的な組織構成が良い結果を生み出している。
- ・ 歴史文化、地域の特性、経済状況等を踏まえて計画している。
- ・ 計画区域は関係性を考慮したゾーン分けで構成されている。
- ・ 駅からの最遠部を 500m として人の動きを考慮している。
- ・ お城の特徴である石積が歩道として生かされている。
- ・ よその良いものを取り込む工夫がなされている。
- ・ 地域産材の活用がなされている。
- ・ 中心施設を公設民営から DBO へ方向転換し地域活性化へ結び付けている。
- ・ いずれにしても、実施計画を立てるに当たり多様な条件があることを理解し、一足飛びに本丸へたどり着くことはないということを実感した。また、時により、大幅な変化が生まれた場合の対応が成果を左右すると、要した費用と現地の成果から感じ、浜田市から職員の派遣を行い研究する必要があると思う。

【村木委員】

- ・ この度の視察において、改めて「話し合いにより計画書を作成し、その実現のためにアクションプランを作成し、官民一緒になって取り組むことが大切である」と感じた。
- ・ 最終的なアクセルは開府 500 年と今後のリニア駅開設と理解した。歴史が未来につなげるという視点は、三隅氏発祥 800 年の今後にも参考となった。甲府市の規模には及ばないが、現在、三隅地区まちづくり推進協議会の地域計画書の見直しをしている。この計画書策定にも今回の視察を生かした

い。公民館担当時代に、地域の宝物を生かした「ふるさと再発見事業」を思い出した。重層的な歴史・文化を感じながら周遊・交流できるまちづくりを今後研究したい。

- ・そして、甲府市の「まちづくり部」の生い立ちに感動した。「使う視点を持って造る」といった、ソフトとハードの両立の考え方。このような考え方も浜田市において取り入れられないか研究したい。

【大谷委員】

- ・甲府市は松江市より人口 15,000 人少ない規模ではある。都心から特急電車を使うと約 1 時間半で行けることもあり、甲府駅近くの横の舞鶴城公園は年間 55 万人の来城があるとのことから、駅前には活気を呈し再開発が進行中であった。
- ・甲府市歴史文化交流施設「こうふ亀屋座」は税務署跡地を利用しているのでスペース的に制約があるなかでは館の内外との動線が演芸場の両側に配置された多目的室を介し 7 線確保され、イベント実施する際は機能的設計であると感じた。しかし、観客席からステージ横の機械設備が見えていたり、1 台 200 万円の水素燃料電池電動アシスト自転車の関連備品が多目的室に置かれていたり、収納や機械の配置設計に課題を感じた。設計を外部に任せても点検修正が可能になるような技能職員の配置が必要と感じた。
- ・山梨県の県都であり玄関口でもある甲府駅前の甲府城周辺地域活性化計画は平成 24 年から始まり、現在も令和 11 年に向けて百貨店跡地再開発が進められ、築城時の堀復元を目指し、堀の拡張工事に着手するとのことである。甲府城の石垣やお堀等の景観ロケーションを生かし、甲府の歴史・文化が感じられる空間を演出するという「小江戸甲府城下町整備プラン」のコンセプトを着実に実行していると感じた。浜田城も「続日本 100 名城」でもありそれ相応の整備計画の必要性を感じた。

【小川委員】

- ・行政だけでなく商工関係者、有識者（都市計画、歴史、観光、地元自治会、商店街）の意見を幅広く取り入れ、アンケート、ワークショップ、整備のアイデア募集等、県民・市民の声を取り入れ計画を検討されてきている。平成 24 年から始まった息の長い、計画をじっくり練った上で整備を始めたと強調されていた点は特に重要であると感じた。
- ・インフラが老朽化していく時代に入り、行政が造ったものを使うというのではなく、使うが側の視点をもって造ることが重要であると指摘され、事業のニーズ、効果のサウンディング調査を重ねられている。また、

亀屋座は設計・施工・運営まで一括委託する DBO 方式を市では初めて採用している。運営者が整備前に決まることで行政が造ったものを使うというのではなく、運営側からの意見を取り入れるために実施された。説明責任や合意形成の観点からも調査方法や委託方式の検討は重要と思われた。

- ・クラウドファンディングでは 6 億を超える寄附が集まったこと、指定管理で運営する亀屋座は 8 年目以降自走予定などの見通しで進められていることなどが印象に残った。
- ・浜田駅周辺整備と比較し人口規模、観光客数、経済力の違いはあるものの、再検討となった三桜酒造跡地の活用、郷土資料館の建替え、石見神楽伝承施設整備に関しての問題点の整理や今後の進め方の検討に当たっての参考となるご示唆を多くいただいた。

【佐々木委員】

- ・甲府城南側の整備で、亀屋座の施設整備については小規模ながら多くの工夫が凝らされ、園児から大人まで様々なシチュエーションの想定で利用ができるようにされていた。また、5 室ある多目的室も様々な利用形態が想定されており、若手起業家のチャレンジショップなども特徴的だった。
- ・交流広場も円形ステージを始め、イベントやマルシェ、ゆったり過ごせる憩いの場ともなっていた。花小路もすでに多くの観光客が歩いており、甲府城からの流れ通りとなっていた。オープン間もない施設ではあるが、見込んだ計画になっていくものと感じた。

【牛尾委員】

- ・三桜跡地利用と駅周辺とのつながりとにぎわい創出の参考にと視察先を選んだが、タイムリーであった。

3 栃木県宇都宮市

水道局直営のヤシオマス「ストロベリーサーモン」の養殖

(担当者 佐々木 豊治)

(1) 日時 令和 7 年 4 月 23 日 (木) 9 : 30 ~ 11 : 00

(2) 場所 宇都宮市上下水道局白沢浄水場

(3) 視察の目的 (選定理由)

浜田市における陸上養殖の推進に向け、上下水道局による養殖に先進的に取り組まれている宇都宮市の事業を学び、当市の取組の参考とするため。

(4) 視察先の概要

- ・人口は 510,448 人 (令和 7 年 4 月 1 日時点)、面積は 416.8 km²。
- ・栃木県のほぼ中央に位置し、東京から北へ約 100 km の距離にある。
- ・市域の南北には東北新幹線、東北自動車道が、東西には北関東自動車道などが市内を貫き、北関東の中核拠点となっている。
- ・直近の合併は平成 19 年 3 月 31 日 (上河内町と河内町)

(5) 視察の内容 (視察先の取組、事業内容等)

- ・事業の目的は近年水道使用量が減っており、水道水の水質の良さの PR として取り組んだ。
- ・水道使用量減の原因は人口減少やペットボトルの利用、ウォーターサーバーの利用などであるが、サーモン養殖を通じて水道の良さをアピールし使用量を増やす目的がある。
- ・市の浄水場の試験池を活用し養殖されており、水道水は年間を通じて水温が一定だが、川の水だと冬は低く夏は高い。魚は水温の変化に弱いとされている。
- ・令和 6 年 1 月に 200 g のヤシオマス (栃木県のブランド魚) を 100 匹購入し、生育目標を 2~3 kg としスタートしたが、先日 3 kg に到達した個体も出てきたが個体差はある。
- ・特徴として
 - ① モンドセレクション金賞を受賞した泉水 (浄水場の源水) を使用しており、年間を通して水温が 15℃ 前後と一定でマス類の養殖に適している。
 - ② 栃木県水産試験場が開発したブランド魚「ヤシオマス」を使用し、短期間で大きく成長する。
 - ③ 特産であるいちごを近隣農家から無償提供してもらい、いちごを添加した餌を利用している。いちごにはビタミン C とポリフェノールが含まれ、魚が健康には育つが、味への影響は不明。

- ・事業経過としては、令和 6 年 1 月に事業をスタートし、令和 6 年末には 2 kg の約 60 匹を水揚げ。
- ・第 2 期として、令和 7 年 3 月にもう一つ監視用の池を作り 200 匹の養殖を開始。令和 7 年 5 月に 3 kg 到達予定。
- ・他の養殖場に比べ成長が早く、1 年間で販売できる大きさの 2 kg に到達し、メディアによる取材や視察などで PR に寄与した。
- ・病死した魚はほとんどなく、健康に育った。
- ・今後はブランド価値向上のマーケティングを進め、3 kg 到達を目指す。

(6) 質疑の内容

Q. 200 g の個体の購入価格はいくらか。

A. 1 kg 当たり 2,000 円で購入し、送料もかかっている。

Q. 水質確保はどのようにしているか。

A. 水を定期的に洗浄している。

Q. 労務費はどれくらいか。

A. 基本的に無人でエサは自動給餌器で行っている。水温などはオンラインで確認できるようにしている。

Q. コストはどれくらいかかっているか。

A. エサ（ペレット）の購入費くらい。今後は民間に担ってもらいたい。

Q. 川の水を使い同じ養殖をしている他の民間業者との競争にならないか。

A. 競争にならないようにしたい。PR を主な目的として販売したい。市の収益を上げるものではない。

Q. 提供先の販路の見込みなどあるのか。

A. 難しい。安定して提供できる数量など課題はある。今後、民間に担ってもらえればと思う。

Q. 万博での提供の内容は。

A. 握り寿司として提供する予定。

(7) 各委員の所感

【川上委員長】

- ・考案したのが中堅職員で、SENSUI（ボトル水）を生かすことを考えた。
- ・浄水事業の隙間を活かした試行事業。
- ・施設活用に工夫がなされている（水質確認槽の活用）。
- ・水産事務所との連携が生かされている（種魚購入先、生育指導）。
- ・豊富で水温が一定の深井戸水の活用で短期安定生育されている。
- ・試行として生育槽を増やし生育環境の調査をしている。

- ・餌は周辺イチゴ農家の不良品を活用し、混入方法等を工夫している。
- ・生育環境（糞、藻等の清掃方法）の工夫をしている。
- ・ブランドとしての価値向上を進めるとともに販路を探っている。
- ・最終形として事業の民間譲渡を見据えている。
- ・いずれにしても、事業がスタートしたばかりであり追跡調査が必要であり、浜田市で陸上養殖を行うとすれば、取り組み方は参考となる。

【村木委員】

発想の転換という点で大変勉強になった。地元の素材（いちご）を生かして、さらに、地元の水質の良さをアピールする考えは、正直思い付かない。この事業は、将来の給水人口の減による水道料金の高騰への対策かと思ったが、そうではないとの回答であった。本格的な事業化にはまだまだ課題があるようだが、公営企業としての取組も参考となった。

【大谷委員】

ペットボトル飲料の普及等による水道使用量の減少の改善に向けて宇都宮の美味しい水を知ってもらうために、モンドセレクションに応募して金賞を得ている。モンドセレクションへ出品するには、日本円でおおよそ 250,000 円の費用がかかるが、世界的な認証を得て製品の価値を高めて売上げ貢献につなげられる点においては、意味は大きいので出品に対する助成制度があると、浜田での製造品の価値を高めることにつながるのではないかと考える。

【小川委員】

マスコミでも広く取り上げられており、安全でおいしい水の PR という所期の目的は十分達成されているものと思われた。浜田市における水産再興の活路としての水産振興と目的は異なるが、陸上養殖の可能性に関して別の切り口からの成功例として評価できる事例と言える。将来的には民間事業者を引き継ぐ意向もあり、民業圧迫とならないよう配慮をしつつ、返礼品、ネット販売、レストランなど販路拡大や収益性の事業化の可能性の調査・研究もされている。

【佐々木委員】

水道の源水を活用し、安定した魚の生育が見込まれており、新たな事業として有効と感じるが、民間事業者との関係や安定した魚の供給、販路先開拓など、今後の課題も多く指摘され、どのように進められていくのか注目していきたい。

【牛尾委員】

欠席

4 委員会の考察

(1) 地元選出国會議員との意見交換

- ・市の現状を認識している市議会議員による国会議員に対しての意見交換や地元の現状を伝える機会は重要であるため、定期的に実施すべき。

(2) 甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座

- ・浜田市においては歴史・文化を加味した浜田らしさ（城下町浜田、日本遺産石見神楽等）を生かした周辺活性化を検討されたい。
- ・三桜酒造跡地活用に向けては、民間事業者へのサウンディング調査や市民へのアンケート調査などを行い、関係事業者や市民に望まれる施設となることを期待する。また、施設は幼児から大人まで、様々な世代の利用を想定し設計されたい。さらに、三桜酒造跡地の設計・施工・運営の委託方式は DBO 方式も含め検討の必要がある。特に、運営においては、将来にわたる費用も考慮し、長期的な計画で進められたい。

(3) 水道局直営のヤシオマス「ストロベリーサーモン」の養殖

- ・産業建設委員会の所管ではないが、水道水の水質 PR のために養殖を活用するという視点は斬新なアイデアであると感じた。このようなアイデアを生かした事業の導入可否を検討する。
- ・宇都宮市の水道水をモンドセレクションに応募され、金賞を受賞されている。浜田市の特産品等に付加価値を与える観点から、各種認証制度への出品に対する助成制度創設の必要性について検討する。
- ・地元の素材を生かした養殖事業の可能性を学んだ。浜田市において、例えば温泉水を活用した養殖の事業化の可能性を模索する。